

No.3 産業のスマート化促進

産業+ICT+環境

目 的

AI、IoT、ビックデータなど新たな技術を活用し、
工場のスマート化を促進する

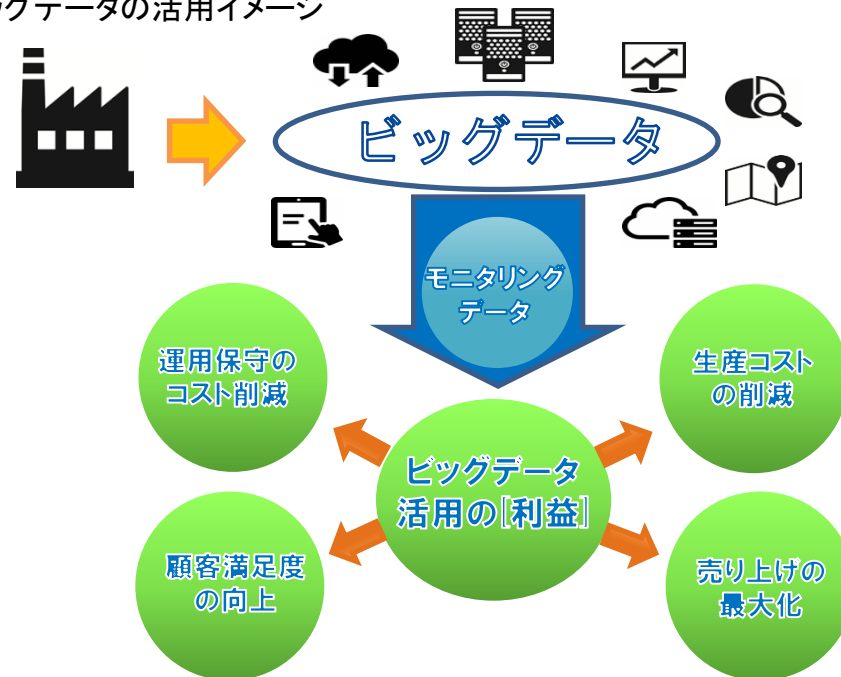
具体的取組

- ①AI、IoT等を導入し、工場のスマート化に取り組むコンビナート企業や中小企業、市内製造業に対する支援を実施します。
- ②AI、IoT等の導入事例の紹介や利活用に関する研修等を実施します。
- ③脱炭素化を促進するために、水素やアンモニア等新燃料への転換を図る事業者への支援を実施します。



プラントにおけるドローンの活用は、高所点検の容易化、点検頻度の向上による事故の未然防止、災害時の迅速な現場確認等が可能となり、プラントの保安力の向上につながると期待されています。

ビックデータの活用イメージ



No.4 ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用した スマート農業導入支援

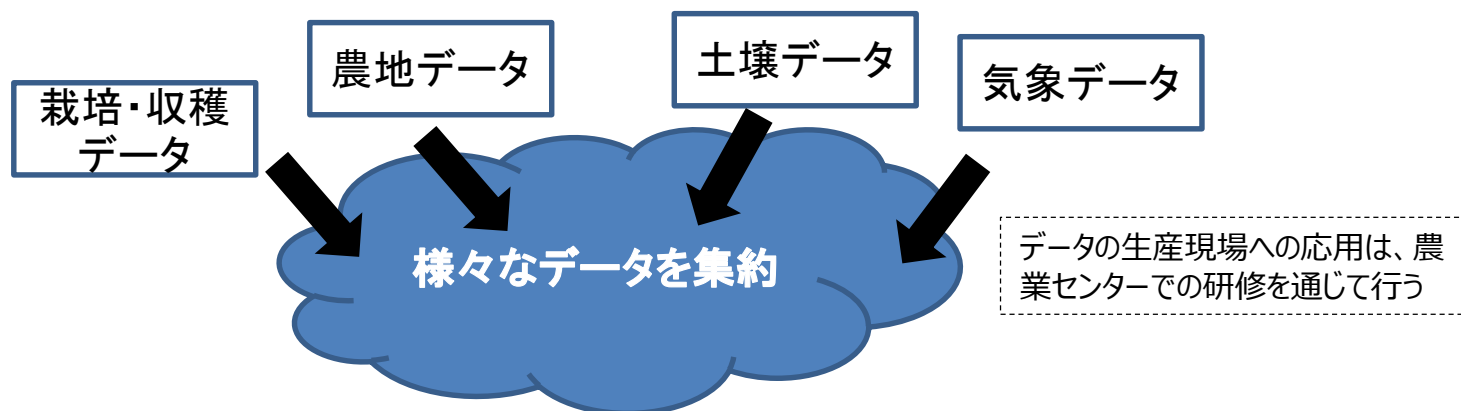
農業+ICT

目的

農業に関するデータを活用できる環境を整備し、作業の効率化・栽培技術の継承につなげることで
農業の担い手の高齢化や、労働力不足に対応する

具体的取組

- ① 産地圃場でのセンサによる栽培や気象状況のデータを集積します。
- ② 導入を検討する農家に対する研修会やセミナーを開催します。
- ③ 相談体制を確立し、農業者と先端技術のマッチングを実施します。
- ④ 実証実験及び導入時における支援や助成を実施します。



- ・栽培ノウハウをデータ化し生産管理に活用
- ・生産管理データと気象データを連携させ、地域に応じた栽培暦を作成
- ・水田の水位管理にセンサ等を活用し、節水につなげる



農作業の効率化・省力化
適切な病害虫管理
技術継承、新規参入促進
収益の向上

No.5 まちと直結、便利で元気な郊外居住地づくり

生活＋交通・にぎわい

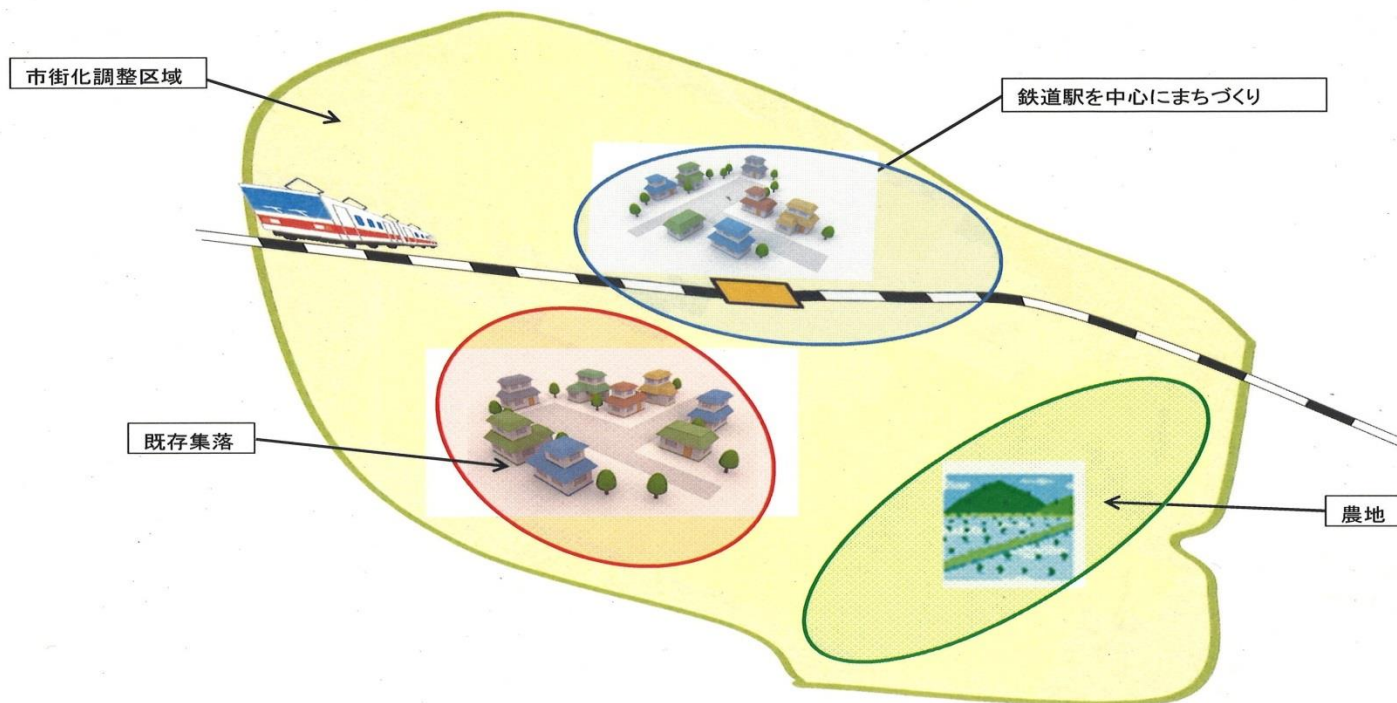
目的

通勤、通学に便利な鉄道駅を中心にしたまちづくりを可能とし、

**日常生活に利便性の高い機能を近隣駅周辺に誘致することで
農村集落の住みやすさを向上させ、維持・活性化を図る**

具体的取組

- ① 市街化調整区域においても、鉄道駅を中心とした区域内で農地以外の一定の土地利用を許容する制度設計を検討します。
- ② 農業施策との整合を図ったうえで、必要なインフラ整備が行われるような制度設計を検討します。



No.6 マイナンバーカードを用いた市民サービスの 利便性向上

ICT+生活

目的

ICTとマイナンバーカードを用いて、

様々な分野において、市民サービスの利便性を向上する

具体的取組

- ①国が運営するオンラインサービス「マイナポータル」を活用し、引越、死亡時や子育てに関する一連の手の続のワンストップ化を進め、市民サービスにおける利便性の向上を図ります。
- ②オンラインによる医療保険資格の確認や公金決済サービス拡充のための環境整備を図る等により、マイナンバーカードの普及を促進します。

-60-

○マイナポータルの機能を活用したワンストップサービスのイメージ



○行政手続におけるキャッシュレス化のイメージ



マイナポータルの機能を活用し、引越・死亡に伴う変更情報や子育てに関する一連の手続を一括して届出できる仕組みを構築するなど、市民サービスの利便性の向上を図ります。

これまで市窓口に出向いて行う必要のあった手続を、自宅に居ながらオンラインで手続が可能になるよう行政手続の電子化を進めます。

No.1 産学官連携でつくる みなとまちづくりプラン

港湾+にぎわい+観光+健康

目 的

四日市港発祥の地である四日市地区を、市街地に近い利点と文化的資源や景観等を生かし
市民が集い、世界へつながる交流の窓口として再生する

具体的取組

- ①港まちづくりを具体化していくための根幹となる構想「みなとまちづくりプラン」を策定します。
- ②歴史的・文化的資源や運河など、港ならではの資源と景観を活用した、歩いて楽しめる空間づくりや環境整備を促進します。



国・県・四日市港管理組合・地元経済界・港湾関係者とともに、この地域一帯の魅力や価値を高めるエリアマネジメントの視点を持ち合わせた、港まちづくりを具体化していくための根幹となる構想を策定します。



市街地に近い利点と文化的資源や景観等を生かした憩いの場として、いつでも市民や来訪者が港に立ち寄って楽しめる魅力的な空間づくりを進め、本市の魅力を高めていきます。

No.2 オアシス(都市公園)再編

環境・景観+子育て+健康

目 的

人口減少、少子高齢化が進行する中で生じてきた未・低利用地を活用し、
公園の再編を核としたパイロット事業を展開する

具体的取組

- ①公共施設の活用転換に伴い発生した公共用地や民間の未利用地を利用し、賑わい創出につながる新たな公園を整備し、市民に憩いの場を提供します。
- ②利用が見込めない小規模公園を廃止し宅地として売却を行い、子育て世代の定住を図ることで、多世代の住むまちへ再生します。

新設公園イメージ



小規模・低利用公園例



市内には利用が見込めない小規模公園が多く、維持管理費のみが増加し続けています。これら低利用公園を廃止・統合し宅地として売却します。

統合する新設公園は、子どもから高齢者まで様々な年齢層が楽しめ、イベント開催等、周辺住民の多様なレクリエーションニーズに対応したものとし、公園を中心としたまちの活性化を図ります。

No.3 まちの『空き』をまちの『好き』にリニューアル

居住+景観

目的

人口減少の進行により増加が懸念される空き家や空き地の利活用促進により
良好な居住地を形成する

具体的取組

①居住地における空き家の建替えやリノベーション、空き地の利活用を促進し、既存ストックの
有効活用を図ります。【空きストックの活用事例】
市営住宅跡地を公園へリニューアル身近な公園が無い地域において、市営住宅跡地の『空き』を活用し、
みんなが使える公園としてリニューアルを行った事例【空き家の利活用の事例】
住み替え支援事業を活用し空き家をリノベーション

Before



After

No.4 地域農業の振興と農地の保全

農業+地域

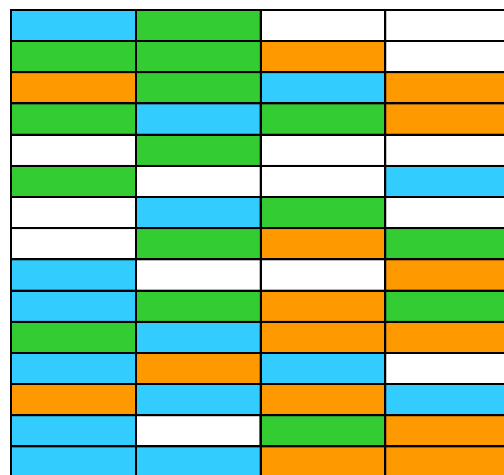
目的

地域で一体となった営農ができる集落営農体制を構築し、

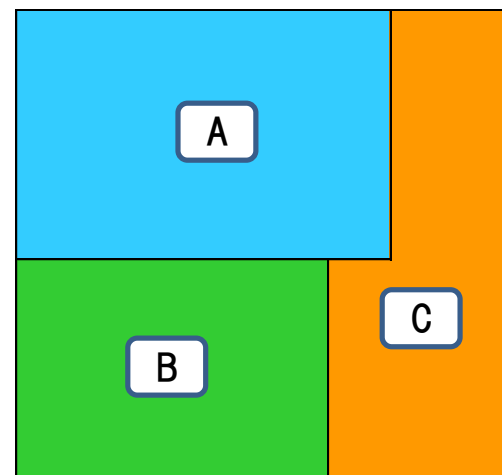
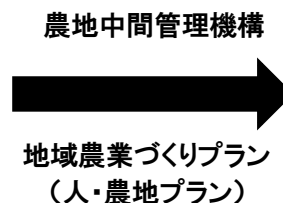
農業が継続できる環境を整え、農業・農地を保全する

具体的取組

- ① 地域の農業関係者が一体となって計画的に農業を行う「地域農業づくりプラン」の策定を促すとともに、プランに基づいた活動を支援し、地域が主体となった農地や農業用施設の維持管理を図ります。
- ② 農地中間管理機構を活用した担い手農家への農地の集積を進めるとともに、「農地バンク」の運用を見直し、円滑に農地の斡旋を行うことにより、新規参入を促進します。



地域内の分散した農地利用



担い手ごとに集約化した農地利用

➡ 農業の効率化、施設の維持管理の軽減

No.1 迅速で分かりやすい防災情報の提供

防災+教育+消防

目的

防災・減災に関する情報伝達機能の強化により、
「自分の命は自分で守る」行動につなげる

具体的取組

- ① 災害情報のプッシュ送信や多言語での配信が可能な防災アプリの導入やAR（拡張現実）機能により、分かりやすい防災情報の提供を行います。
- ② 複数の伝達手段に一斉配信するワンオペレーション情報発信システムを構築します。



出典：総務省資料



ワンオペレーションシステムのイメージ

防災アプリやARなどの最新テクノロジーの活用により、
 的確な情報提供と身近で分かりやすい防災教育を
 可能にします。

緊急時には様々な部署から、防災行政無線や安全安心防
 災メール、各種SNSなどの手段を活用し、迅速な情報提供を
 行います。

No.2 地域防災の取組の推進

防災＋福祉＋地域コミュニティ

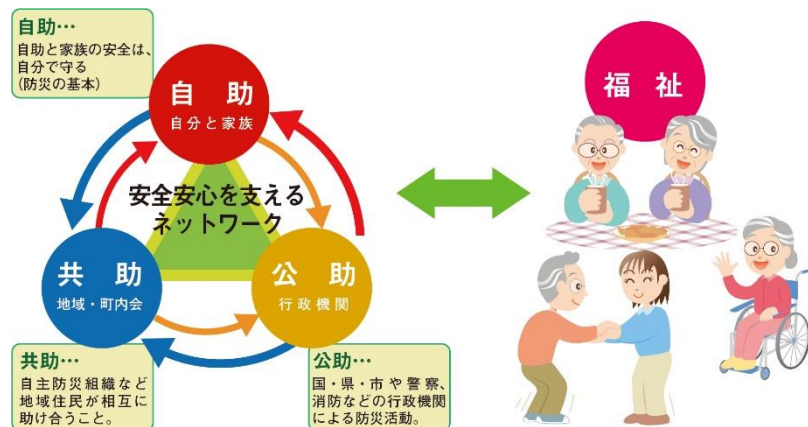
目 的

地域防災の取組を支援し、

「自分たちのまちは自分たちで守る」住民主体の行動を促進する

具体的取組

- ① 地域の創意工夫を凝らした避難支援への取組を支援する仕組みを構築します。
- ② 各地域毎にそれぞれ必要な防災情報を共有・発信できるシステムを構築します。
- ③ 「防災」と「福祉」の連携による高齢者等の避難行動を促進する地域づくりを構築します。



防災・減災の取組と在宅介護支援センターや要配慮者利用施設の取組を連携し、地域防災にかかる取組を支援します。



SNS等を活用し、地域の防災情報や避難情報を共有・発信できる仕組みを構築します。

No.3 防災教育拠点の充実

消防+防災

目的

拠点の整備と機能の充実により
防災教育の推進を図る

具体的取組

- ① 設備の老朽化が進んでいる北消防署併設の防災教育センターについて、VR等の最新の技術を活用するなど市民が災害を身近に感じることができ、実践的な対応を学ぶことができる機材の導入や施設の改修等に取り組めます。
- ② 地域での自助・共助にかかる取組を支援するため、最新技術を活用するだけでなく、避難所運営や防災ツアーなどの体験型防災教育に取り組めます。



津波防災教育センター(和歌山県広川町)

VR等の最新の技術や機材を導入し、市民が災害を身をもって体験できる等、実践的かつ魅力ある施設へ改修を行います。



防災ツアーなどの体験型防災教育プログラムを活用し、人材の育成と防災訓練の充実を図ります。

No.4 暮らしの安全性を高める川づくり(治水安全度向上)

河川+防災

目的

近年増加する局地的降雨で危険にさらされている中小河川沿川の対策を進めることで
治水安全度を高める

具体的取組

- ①ひとたび堤防が決壊すると流域の住宅市街地に深刻な影響を与える三滝川、海蔵川の整備を促進します。
- ②三重県が行う三滝川、海蔵川の整備に必要な準用河川堀川の内水対策を進めます。



市街地を流れる三滝川。堤防の背後地に家屋が密集しています。



準用河川堀川における内水対策として
①放流路の設置 ②排水機場の設置 ③阿倉川樋門の
操作規則変更 を三滝川分派完成までに行います。

健康で豊かに暮らせる社会を築く取組

『 幸せ、わくわく！ 四日市生活 』

～健やかで楽しい人生100年を～

四日市市に集まる人々の力を、まちづくりの原動力にする 『健康・生活充実都市』

の実現に向けて

プロジェクト

01

100歳時代の健康寿命
延伸プロジェクト

年を重ねても、生き生きと元気に暮らしたい。それには健康づくりが大事と分かっていても、きっかけづくりや長続きは難しいものです。

だからこそ、医学や行動経済学などの知見を活用し、市民が「自然に」「楽しみながら」健康づくりに取り組める仕組みの導入や環境づくりを進め、長寿時代に生活習慣病にならない「健やかな四日市生活」を推進します。



プロジェクト

02

超高齢社会における
課題解決プロジェクト

この先、確実に訪れる超高齢社会では、認知症、孤立化・無縁化、労働力不足など様々な課題が社会全体を悩ませます。

高齢になっても住み慣れた場所で安心して生活できるよう、ICTを活用するなど知恵を絞り、超高齢社会に対応した社会システムを創る。そのための「挑戦」を、多くの協力を得て進めます。



プロジェクト

03

WE LOVE 四日市
もっとわくわく
プロジェクト

四日市っていいよね！

多くの市民の皆さんに、そう思ってもらえるまちになるために、オール四日市で様々な取組を仕掛けます。

日常生活の中で幸せ感やわくわく感を感じられ、ありたい人生を送ることができるまちに。そして、人と人のつながりを大切に、四日市のおすすめや良い所を増やしていきます。



人生100年となる超長寿社会において、

「いつまでも元気で活躍でき、暮らしの中で楽しみと幸せを実感できるまちづくり」を進めます。

No.1 いきいきと活躍できる環境づくり

健康づくり+まちづくり

目 的

生涯にわたって健やかな生活習慣を形成し、疾病予防・重症化予防を図ることで
住み慣れた場所で、いつまでも元気で活躍できる健康なまちをつくる

具体的取組

- ① 暮らしの中で、健康にかかわる情報にふれる機会を増やします。
- ② 自然と健康づくりに関心をもつきっかけとなるよう、歩くことやからだをうごかすことを積極的に進め、楽しみながら健康づくりに親しむ環境づくりを進めます。
- ③ 生活習慣病の予防、重症化予防を図ります。



健康づくりに関心をもつきっかけとなるよう、楽しみながら自然に歩くことやからだを動かすことが体験できる健康づくり教室、ウォーキング大会などの多様な事業を実施します。